

編集後記

2019年は例年になく6月上旬から気温が上昇し、当別は豊かな日差しを感じ、北海道ならではの爽やかな季節を迎えています。令和初発刊となる本号におきましても、論文等の投稿並びにお忙しい中、論文の査読を快く引き受けていただいた先生方に深く感謝申し上げます。

さて、本号では原著論文3編、症例報告1編並びに最近のトピックス3編の投稿をいただきました。原著論文は薬理学分野の村田佳織先生、歯科矯正学分野の山口優先生並びに臨床口腔病理学分野の佐藤惇先生からの報告です。村田先生からは歯原性上皮細胞のマイグレーションにおける血清中成分とEGFやケモカイン受容体との相互作用の重要性について、山口優先生からは生体力学的環境が下顎頭の組織構造と細胞外基質のmRNA発現に与える影響について、佐藤惇先生からはタモギタケ中に含まれるエルゴチオネインの口腔粘膜防御作用について報告されています。いずれも、若手研究者の皆様による精力的な研究成果が披露されています。また、臨床口腔病理学分野のBhoj先生には、歯原性角化嚢胞に関する希少な症例を紹介していただいております。さらに、薬理学分野のAzmerce先生、う蝕制御治療学分野のTubayesha先生並びに伊東歯科口腔病院の廣瀬知二先生からは、基礎研究手法或いは歯科臨床に密接に関連する最近のトピックスを提供していただいております。いずれも大変興味深い内容ですので、是非ご一読ください。

今年度は歯学部入学者数が定員80名を満たすとともに、歯科医師国家試験合格率も80%を越えて、新元号の令和旋風と同様に歯学部の巻き返しを図る盛り上がりが見込まれます。本学歯学雑誌もこれらの勢いに乗じて、さらなる充実に努めて参りますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。(石井 記)

次号（第38巻、第2号）の発行は令和元年12月31日です。

投稿原稿募集の締め切りは令和元年9月30日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2019年第38巻、第1号の巻末をご参照ください。